

学校だより

20

『保育所に一度来て見て下さい』

～ 豊原保育所 ～

豊原保育所の玄関を入っていただくと、年長児が育てたミニヒマワリが、かわいく出迎えます。(七月上旬頃)

今頃は(八月始)は、年中児が育てたミニトマトが、出迎えるかと思えます。

年長児は、別にピーマン、キュウリ、スイカ、味ウリ、トマトの五グループに別れ、種から栽培しています。年少児、未満児は、あさがお、へちまを植えました。

「この種、しましまがある」私の家ね、私がばらぐみ(年中児)の時、ひまわり植えちゃったか



ら、この種みたことある」「この種(スイカ)黒いけど、この種(ウリ)黄色」「この種(ピーマン)円いけど、この種(ピーマン)長いね」「私ピーマン嫌いけど、ピーマングループになったほ」「保育者が「ピーマン、えりちゃんが大きくして、一杯ならしたら、食べられるかもしれんよ」

保育者「これがミニヒマワリの苗よ、あとは草よ」「なしてわかるほ」「草ってなあに」「ヒマワリが大きくなるほをじゃまするほいね」「草もお母さんがおってほよね」保育者おもわず「うん・・・」

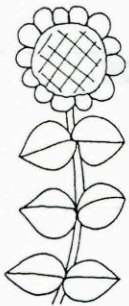
「お母さん、これ私のヒマワリ、見て見て、葉が4枚になっ

た」「ヒマワリの丈なのに、50cm だよいのですか」「丈が30cmくらいですって」「ミニトマトをみて」「この缶(直径30cm位の缶づめの缶)では、少し芽を少なくしちゃったほうがええでしょう」指導して下さる、おじいちゃん、おばあちゃん。

「垣の竹がいますよ」「わらがあつたほうがええから、もつてきましょう」いろいろなお世話で、今、豊



原保育所は、たくさんの植物が逞しく育っています。



町民文芸

俳句

清風句会

短歌

三隅短歌会 (順不同)

- 路地多き城下、下町半夏生 齊藤 元
- 遠山の日盛領ち点眼す 藤沢 志帰
- 日盛に来し郵便屋顔を拭く 仁保 民子
- 酷暑でも畑が命老の手で 上利 花女
- 日盛や温泉の町ひそと静まりぬ 潮田うしほ
- 日盛の農作業よけ煮しめ炊く 上田 雪子
- 日盛りに陰から陰へまた歩き 沖村美智子
- 日盛りに峠の風に吹かれ立つ 大谷 つね
- 日盛に飼い主探すか迷い犬 木村 智子
- 半夏生宿下駄重き湯泉の疲れ 高崎はま子
- 選者追吟 富田佳津美
- 半夏生背なを丸めて医者通い
- 初もぎの胡瓜三本香の立つを小色に込め嫁に送りつ 古屋 博子
- 梅雨雲を茜に染めて陽の沈むところわずかに明るみであり 立間 雅子
- 積乱雲うごめくように変わりゆく廻り灯ろうの空の風景 岡本 長一
- 黄に熟れて雨にうたれし梅の実の落ちてつやめく黒き畑土 村田 敦子
- 神やどるとき山なり雨晴れて立ち昇る雲の豊かなる白 小田 恵子
- ふるえつ、胃カメラを飲むこの我に心配いらぬと言う医師の声 松野美津子
- 夏雲の夕空低くむら覆い今日の一日の証ぞ灯る 平川 育子
- 背伸びして庭の梅もぐ妻のかけ老いを捲りて池にかがやく 伊藤 一郎